

BeFine!

Systemex

株主・投資家の皆様との
コミュニケーション誌

第40期 第3四半期報告

2006年10月1日～2006年12月31日

証券コード:6869

健やかな、未来のために。



写真：セントラルパーク
(ニューヨーク)

特集

米国医療の変化と シスメックスの飛躍

～ヘルスケア先進国に始まるこれからの医療～

- 業績の推移
- SYSMEX TOPICS
- IR・広報室からのお知らせ



インタビュー

代表取締役社長

家次 恒

Hisashi Ietsugu

シスメックス株式会社

米国の医療サービスは世界最高水準として知られています。一方、高齢化の進展とともにその費用負担は増加し、医療の質向上とともに医療費を抑制するための“質の高い効率的な医療”が、求められています。

このため、米国では早くから健康政策を推進し、“予防医療”を進めてきました。現在では「自分の健康は自分で守る」という考え方が広く浸透しています。

この米国にて、血球計数分野において当社は着実にシェアを伸ばし、シスメックスブランドの認知向上を図っています。シスメックスのグローバル戦略のなかで大きな鍵を握る米国市場における取り組みを紹介させていただきます。



米国の医療事情を教えてください？

高齢化の進展により医療の質向上と医療費抑制が求められています。

米国で生活を始めることになった多くの日本人が戸惑うのが医療サービスであると思います。

米国では、日本のように国が運営する国民皆保険制度がないため、民間の保険会社のなかから、自分にあった保険を選択する必要があります。保険によって、保障される病気の種類、受診できる医療機関、自己負担の割合などが細かく規定されています。そのため、医療サービスの範囲によって掛け金も異なり、お腹の調子が悪い、目が充血した、歯が痛いといっても、契約している

＊マクガバン・レポート：1977年米国上院の特別委員会にて、「食事(栄養)と健康・慢性疾患の関係」についての世界的規模での調査・研究が行われ、その結果をまとめた報告書のことです。

＊ヘルシービブル：1979年米国厚生省によって出された「健康増進と疾病予防に関する公衆衛生長官報告」を受けて、特に個人の生活習慣改善に重点を置いて考えられた政策です。予防に関する科学的に検討された目標を年代別に設定し、国民運動として目標達成を図るものです。

＊検査センター：検査業務を専門に実施する企業のこと。近年、通常病院内で行われている検体検査を外部の検査センターなどに委託して実施される場合があります。

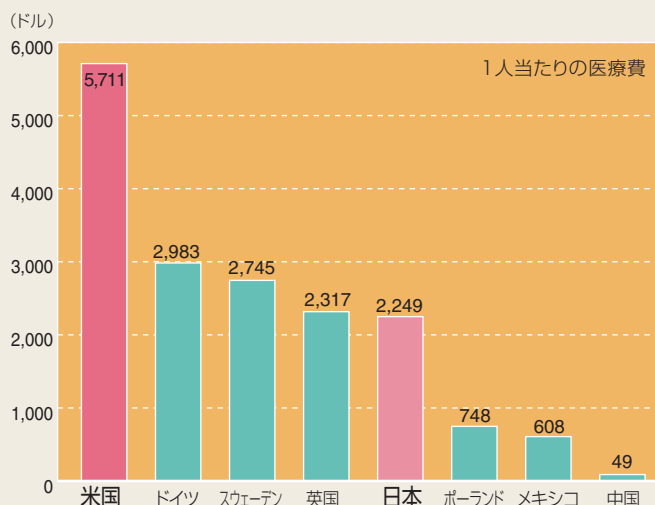
＊SNCS (Sysmex Network Communication Systems)：お客様の分析装置と、シスメックス・テクニカルサポートセンターをインターネットでオンライン化することにより、リアルタイムの外部精度管理・装置状態の自動監視や、Webによる情報提供を行うサービスです。

＊血球計数装置：赤血球・白血球・血小板の数・種類・大きさやヘモグロビン濃度を測定する装置です。赤血球数・ヘモグロビン濃度は貧血や多血症などの診断に有効な検査項目です。

＊疾患マネジメント：新しい検査を導入することで、一人ひとりの患者さんに最適な医療を提供するマネジメントシステムです。

＊メタボリックシンドローム：内臓脂肪型肥満（内臓肥満・腹部肥満）に高血糖・高血圧・高脂血症のうち、2つ以上を合併した状態をいいます。

●国民医療費の国際比較（2003年）



The United States

保険によってカバーできる医療サービスの範囲は異なります。このような事情もあり、米国では「自分の健康は自分で守る」という考え方が広く浸透しています。また、民間の保険会社は、効率的に医療サービスを提供することを医療機関に求めるとともに、被保険者には健康増進を求めています。

一方で、65歳以上の高齢者や身体障害者などに対しては公的な医療保険制度があります。また、福利厚生の一環として従業員に医療保険を提供する企業も多く、高齢化の進展とともにその医療費負担は、国、企業、一般の人々全てに重くのしかかっています。

高齢化の進展により、医療の質向上とともに医療費抑制が、現在の米国医療サービスの大きな課題となっています。

米国では医療費抑制に向けてどのように取り組んでいますか？

“質の高い効率的な医療”と “予防医療”の実現を目指しています。

医療費抑制のため、米国では“質の高い効率的な医療”と“予防医療”の両面から取り組んでいます。“質の高い効率的な医療”の代表例として、IHN（統合医療ネットワーク）があげられます。IHNとは、複数の医療機関が地域単位でグループ化した組織体です。このIHNにより、地域住民は多様で総合的な医療・介護サービスを受けることが可能です。一方で、医療機関は検査などの共通業務を集約することにより効率化を図っています。この他、米国ではGPO（Group Purchasing Organization）といわれる医療共同購入組織の存在も特徴としてあげられます。医療機関は、GPOを経由することによって、医療材料や医薬品などの購入に関する業務を効率的に行っています。

一方、“予防医療”は1970年代に発表された通称「マクガバン・レポート^{*}」の中で、「米国人の食生活がさまざまな慢性病の原因

となっている」ことが報告されたことに始まります。それ以降、米国の医療は治療から予防重視へと大きく転換しました。

その後、米国政府は数値目標を定めた健康政策「ヘルシーピープル^{*}」を発表し、疾病予防や健康増進対策を進めてきました。この取り組みは、現在も「ヘルシーピープル2010」へと引き継がれ、全ての国民が健康寿命を伸ばし、生活の質を向上させることを目標に推進されています。

このほか、米国政府は「最高の医療を実現すること」を目指し、日本の約10倍にもおよぶ予算を医学研究費に投入しており、予防に貢献する新しい検査技術の研究にも取り組んでいます。

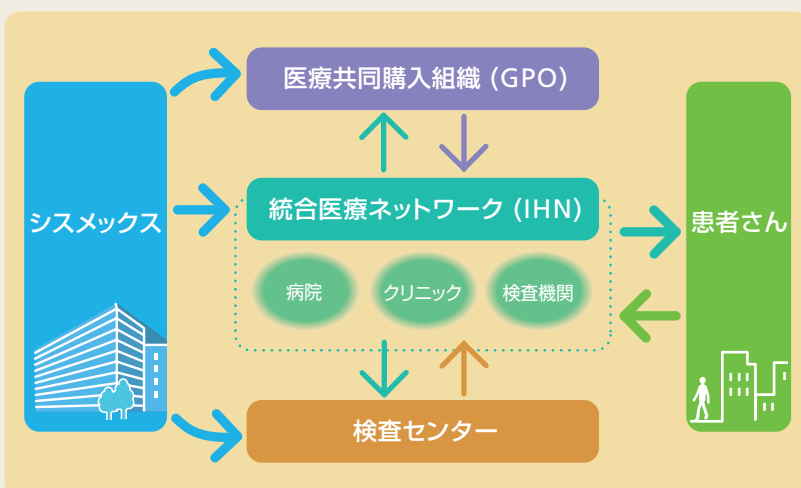
米国でのシスメックスの事業展開を教えてください？

シスメックスは市場ニーズを捉え、 検査の質向上と効率化を提案しています。

シスメックスの対象市場は病院市場と検査センター^{*}市場の大きく2つに分けることができます。現在、医療費の抑制が進められているなかで、検査従事者の不足により、検査業務の効率化が一層求められています。当社は、グローバルに高く評価していただいているロボティクスやネットワーク対応型製品をお客様にご使用いただくことで、検査の質向上とともに検査業務の効率化および標準化を実現するための提案を行っています。また、当社分析装置は、広大な米国のさまざまな場所でお客様にご使用いただいております。お客様の装置を遠隔管理するネットワークサポート商品「SNCS^{*}」の導入が増えています。

当社製品の品質・性能および販売・サービス活動に対する信頼性は、米国調査機関による顧客満足度調査で、7年連続して高評価をいただいています。2003年に移行した直接販売・サービス体制を活かし、今後も米国全土のお客様のニーズを捉え、よりきめ細やかな販売・サービス活動を推進します。

●米国市場の構造



米国検査機関の風景 (ACLラボラトリーズ)

ACLラボラトリーズはグループ内に約60施設を擁し、米国中西部で最大級のIHNに所属する医療機関で実施される検査業務を受託しています。当社製品の活用などにより、検査業務の効率化と各施設間での標準化に取り組んでいます。

すでに当社主力の血球計数装置*は、米国以外の地域で市場シェアNo.1としての評価をいただいています。米国での市場シェアの拡大により、血球計数分野でグローバルNo.1を目指します。

今後、医療費抑制に効果的な
“予防医療”にどのように貢献していくのですか？

**シスメックスは、患者さん一人ひとりに
最適な医療の提供に貢献する
新しい検査の創出を目指しています。**

当社が現在取り組んでいるライフサイエンス事業は、医療費抑制に効果的な“予防医療”に大きく貢献すると考えています。当社が掲げる「疾患マネジメント」*のコンセプトは、病気の予防や再発・悪化予防のために、患者さん一人ひとりに最適な治療の選択を可能にする価値の高い検査をお届けすることです。現在、血液疾患、がん疾患、感染症、メタボリックシンドローム*などを対象に研究開発を進めています。

米国では膨大な医学研究費が投入されているだけでなく、世界最高水準の医療機関が多く存在しています。当社は付加価値の高い新しい検査技術の創出を目指し、これらの医療機関と共同研究を行っています。現在、米国のほか、日本、欧州でも研究開発を進めています。今後は臨床試験を進め、販売・学術サポート体制の構築および市場での認知度向上を図り、早期事業化を実現したいと考えています。

当社は、豊かな健康社会作りに貢献する新たなビジネスとしてライフサイエンス事業を位置づけ、市場創造に向けた取り組みを一層加速させていきます。今後ともご支援のほどよろしくお願いします。

●研究開発の方向性

対象領域の拡大へ

がん疾患
感染症
血液疾患
メタボリック
シンドローム

ライフサイエンス

検体検査

血球計数検査、
免疫血清検査など

疾患マネジメントに
貢献

基礎技術に独自の価値を付加し、新しい検査技術を創出



PROFILE

家次 恒 いえつぐ ひさし

【出身地】大阪

【略歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社（現シスメックス株式会社）に入社。1996年、代表取締役社長に就任。

【趣味】読書、ゴルフ、スポーツ観戦（熱心な阪神タイガースファン）

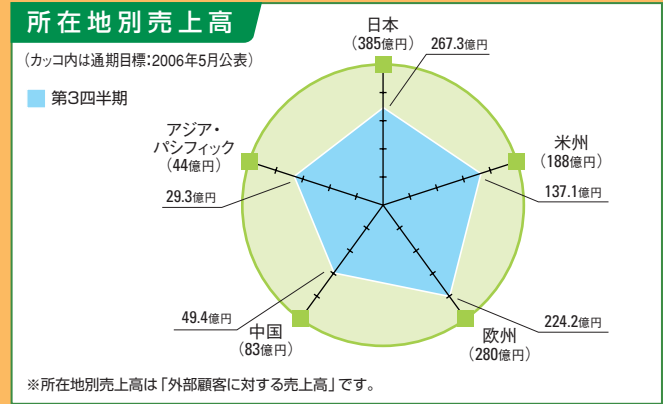
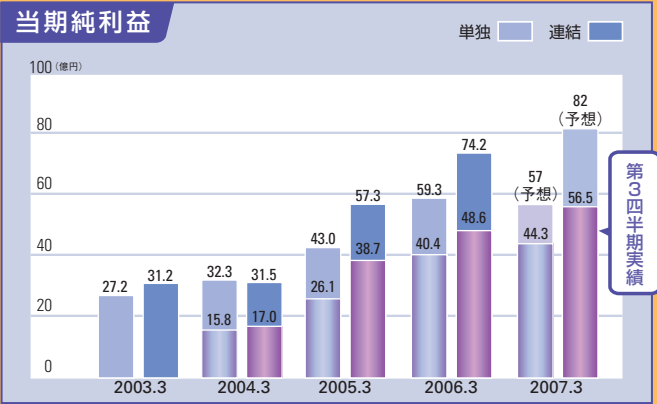
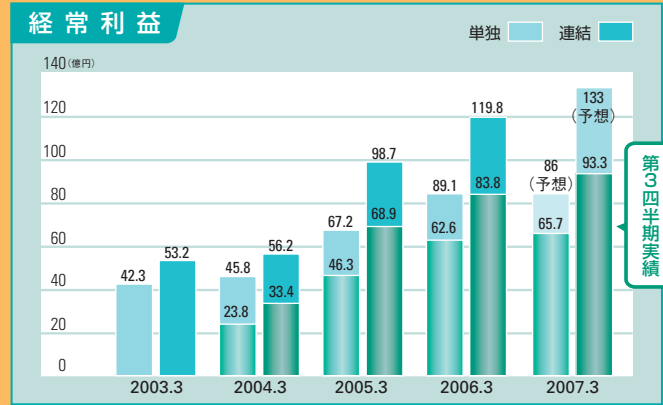
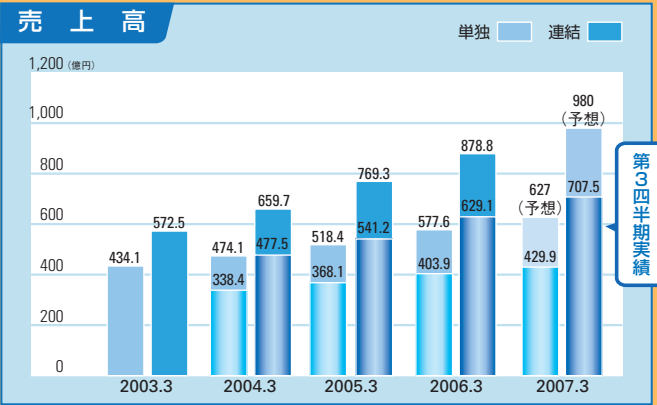
【信条】「意あらば通ず」

業績の推移 | 当第3四半期（4月～12月）の連結売上高は、前年同期比12.5%増加し707億円、仕向け地別売上高では、日本は前年同期比5.4%増加し256億円、海外は前年同期比16.9%増加し450億円となりました。利益面では、営業利益は海外での販売・サービス体制の強化に伴う販売・サービス費用の増加および研究開発費の増加などにより販売費及び一般管理費が増加したものの前年同期比17.7%増加し85億円となりました。経常利益は前年同期比11.3%増加し93億円、四半期純利益は前年同期比16.1%増加し56億円となりました。

所在地別の状況として、日本では、サービス&サポートを含めたソリューションビジネスを展開し、病棟・開業医などの市場や動物市場も視野に入れた事業活動の展開に取り組みました。米国では、総合力を活かした大手検査センターや中小市場への販売力強化を推進するとともに、ネットワークサポート商品の販売開始

など、お客様へのサービス&サポートの充実を目指しました。欧州においては、2006年5月に南アフリカ共和国に現地法人シスメックスサウスアフリカを設立し、今後の成長が期待されるアフリカ東南地域の代理店やお客様へのサービス&サポートの強化に取り組むとともに、同年9月にスイスの現地代理店を子会社化し、販売体制の強化を進めました。また、アジア地域では、経済成長の著しいインドでの事業基盤強化のため、同年12月に現地合弁会社の資本を増強し、試薬生産工場の設立やお客様へのサポート活動の強化を図りました。研究開発につきましては、DNAチップ分野で世界的に評価の高い米国アフィメトリクス社と共同研究開発および臨床開発・販売に関する契約を結ぶなど、疾患マネジメントを目指した価値の高い新たな検査技術の創出に向けた研究開発に努めました。

なお、通期の業績見通しに変更はありません。



シスメックス・トピックス

2006/10-2007/1

SYSMEX TOPICS

四半期の動向

2006・10月 >> BRICsの一角を占めるインドで、試薬生産拠点の設立とサポート体制強化を発表

12月 >> 株式会社シーエヌエーの完全子会社化を発表

2007・1月 >> 先端医療振興財団に寄附研究部門「シスメックス浅野研究室」を開設

1月 >> オーストラリアに駐在員事務所を開設

1月 >> オンコリスバイオファーマ社と共同で、新たな細胞診断技術を確立

2006・12月 >>

世界的なDNAチップメーカーの米国アフィメトリクス社と共同研究開発および臨床開発・販売に関する契約を締結

当社はDNAチップ技術における世界的企業アフィメトリクス社と共同研究開発および臨床開発・販売に関する契約を締結しました。

DNAチップを用いた遺伝子解析は、将来の診断技術として極めて重要なもので、世界中の研究機関がDNAチップを用いた新しい診断技術の創出を目指して研究開発に取り組んでいます。

今後は、アフィメトリクス社と血液疾患やがんの分野において、新しい診断技術の創出に向けた共同研究開発を進め、開発されたチップをシスメックスは全世界で販売します。

さらに、アフィメトリクス社が開発する診断用DNAチップおよび装置・試薬の臨床開発を行い、順次日本およびアジアで販売していきます。

DNAチップ:ガラスやプラスチックなどの基板の上に、多くの種類のDNAの断片を貼りつけたもので、遺伝子の働き具合を測定するための器具です。

アフィメトリクス社との調印式

イメージ

試薬生産工場 (シスメックスインドネシア)



日本IR協議会より 「IR優良企業賞2006」を受賞しました

当社はこのたび、日本インベスター・リレーションズ協議会（JIRA）主催の「IR優良企業賞2006」を受賞しました。

「IR優良企業賞」は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組んでいる企業を表彰するもので、日本企業のIR意欲を一層喚起し、産業界におけるIRを普及させることを目的としています。1996年から始まり、第11回目を迎えた2006年は、過去最多の応募がありました。株主・投資家の皆様ならびに関係者の方々のおかげをもちまして、2004年の「IR優良企業奨励賞」に続きIR優良企業賞を受賞することができました。同賞には、当社のほかアステラス製薬、オムロン、東京エレクトロン、東京ガス、日本郵船、ファミリーマート、そして大賞にはエーザイが選ばれました。

今回の受賞を励みに、これからも投資家の皆様が当社についてのご理解を深めていただけるよう、より一層充実したIR活動に取り組んでいきます。今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。



トロフィーと表彰状



IR優良企業賞 表彰式

「日経アニュアルレポートアワード2006」 に入賞しました

当社の2006年度版アニュアルレポートが、日経アニュアルレポートアワード2006（日本経済新聞社主催、日本IR協議会協力）にて、『入賞』作品に選定されました。



アニュアルレポート2006

個人投資家様向け会社説明会および IRイベントに参加しました

昨年12月7日（木）に東京にて開催された、当社を含む上場企業9社主催による個人投資家様向け会社説明会に参加しました。会社説明会には、延べ800人以上の個人投資家の方々にご参加いただき、当社の知名度向上と事業内容を紹介できる良い機会となりました。

また、同じく12月に東京にて開催された「第9回ノムラ資産管理フェア」や、本年2月16日（金）・17日（土）の2日間にわたり大阪にて開催された「関西ノムラ資産管理フェア2007」のIRイベントにも出展しました。このIRイベントは、資産管理と投資に必要な知識や情報を個人投資家の方々に広くお伝えすることを目的としたもので、当社もブースを展示し、ご来場いただく投資家の皆様に当社の企業情報を説明しました。

今後も、このような個人投資家様を対象としたIRイベントに積極的に参加し、今まで当社になじみが少なかった方々にも、私たちの生活にとって身近で将来性がある会社であることをご理解いただけるよう努めていきます。

（IR・広報室 S・H）



個人投資家様向け会社説明会



ノムラ資産管理フェア（東京）の当社展示ブース

メール配信サービスは ご登録されましたか？

メール配信サービス

読者募集中（登録無料）

最新の会社情報を
メールにてお知らせします。

お申込み

ご登録はこちらへ

www.sysmex.co.jp/ir/m_mag.html

当社の最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールにてお知らせする「メール配信サービス」では、随時最新の情報を発信しています。ご登録の手続きは簡単で、購読は無料です。皆様、ご登録はお済みでしょうか？多くの皆様のご登録をお待ちしております！

株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	6月
■基準日	定時株主総会 3月31日／期末配当金 3月31日／中間配当金 9月30日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。
■公告掲載新聞	日本経済新聞
■上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部
■証券コード	6869
■単元株式数	100株
■株式事務	株主名簿管理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 同事務取扱場所 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 （郵便物送付先・電話照会先） 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777（通話料無料） 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 同取次所 野村證券株式会社 全国本支店

会社概要

（2007年1月31日現在）

■商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION （1998年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更）
■設立年月日	1968年2月20日
■資本金	84億3,145万円
■格付	A（R&I:格付投資情報センター）
■従業員数	1,246名 ※上記従業員数には関係会社への出向者195名および 準社員・嘱託・パートタイマー235名は含んでおりません。
■主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
■主な事業所	本社 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 ソリューションセンター テクノセンター 研究開発センター 加古川工場 小野工場* 西神工場* 仙台支店 北関東支店 東京支店 名古屋支店 大阪支店 広島支店 福岡支店 *シスメックス国際試薬株式会社 営業所：札幌、盛岡、長野、新潟、千葉、横浜、静岡、金沢、 京都、神戸、高松、岡山、鹿児島